

<b>専門ゼミB</b>		<b>講義</b>	<b>准教授 伊藤 新 准教授 牛島 詳力</b>	
<b>科目カテゴリー</b>	<b>柔道整復師コースの必修科目</b>	<b>科目ナンバリング</b>	<b>12130302</b>	

### 1. 授業のねらい・概要

柔道整復学およびスポーツ外傷・障害領域における受傷機転や治療法、合併症、予防法について内的リスク要因を含めた機能解剖学的指標、パフォーマンス指標を用いて検討する。

### 2. 授業の進め方

本ゼミでは、これまでに学んできた「外傷の特徴と治療」「スポーツ傷害の治療と予防」「トレーニングとコンディショニング法」などから卒業研究のテーマを選択し、研究計画の立案、文献の探索、測定体験の実施を行う。さらにそれに合わせて解剖学や生理学、柔道整復学の理解を深めるために国家試験対策も指導し小テストを実施し、必要に応じて学生への個別面談も行う。

### 3. 授業計画

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・履修指導・研究倫理について</li> <li>2. 機器の操作方法実習①（超音波診断装置）</li> <li>3. 機器の操作方法実習②（重心動揺計，フォースプレート），小テスト①</li> <li>4. 研究計画書の指導</li> <li>5. 予備実験</li> <li>6. 本実験①（グループ①），小テスト②</li> <li>7. 本実験②（グループ②③）</li> <li>8. データ解析</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 発表資料の作成①（原案の作成），小テスト③</li> <li>10. 発表資料の作成②（結果，考察）</li> <li>11. 発表資料の作成③（考察）</li> <li>12. 発表資料の作成④（まとめ）小テスト④</li> <li>13. 卒業研究成果物の作成①（体裁の説明）</li> <li>14. 卒業研究成果物の作成②（原案の作成）</li> <li>15. 後期まとめ</li> </ol>
--	--

### 4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

自分自身の研究スキルを身につけるためになるべく多くの学術論文（質の高い論文）に目を通す時間を確保してもらいたい（1時間必要）。卒業研究発表会などプレゼンテーションに臨む際は、事前に十分な準備をしてからゼミに参加すること（おおよそ3時間以上必要）。

解剖学や生理学、柔道整復学の事前学習として、テキストの該当箇所に目を通し、疑問点等を明らかにしておくこと（1時間以上必要）。

### 5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

### 6. 授業における学修の到達目標

自然科学領域の研究論文を理解するための基礎力を身に付ける。加えて、研究論文の作成および研究成果の発表に求められる基本的なスキルを身に付ける。さらに、スポーツ傷害をテーマとして柔道整復学への理解力を高める。

### 7. 成績評価の方法・基準

小テスト（40%）、研究発表を実施し評価する（60%）。

### 8. テキスト・参考文献

西川彰／小林直行 著，解剖学ワークブック，医歯薬出版  
西川彰／小林直行 著，生理学ワークブック，医歯薬出版  
小林直行 編，運動器疾患ワークブック，医歯薬出版  
その他の参考資料は必要に応じて授業中に配布する。

**9. 受講上の留意事項**

私語およびスマートホンの使用，飲食，帽子の着用は禁止とする。

**10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無**

該当する。本授業は整形外科における実務経験を活かして指導する。

**11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連**

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。